

# 企業ニュース 日本水産

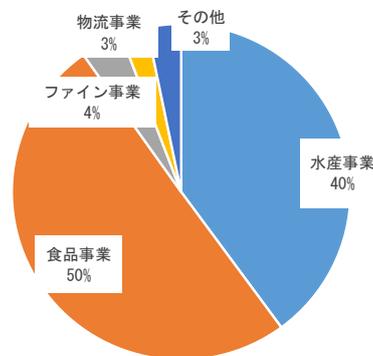
(東証1部: 1332) <http://www.nissui.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

## 医薬品原薬も手掛ける国内大手水産会社

1911年に下関で田村汽船漁業部を創業、1919年に共同漁業に組織変更し、1937年に日本水産に改称した。1943年、水産統制令により日本海洋漁業統制となり、冷蔵、冷凍、加工・販売部門を帝国水産統制（現ニチレイ）に譲渡、戦後現社名に再度改称した。漁業・養殖から、水産物の買い付け、加工販売なども手掛け、グローバルに展開する国内大手水産会社。水産資源枯渇の懸念が台頭する中、養殖事業などにも注力、マグロやマダコなどでは完全養殖も行っている。1982年、EPA（エイコサペンタエン酸）販売開始。EPAは、高純度品が国内製薬メーカーの閉塞性動脈硬化症治療薬原薬となっているほか、機能性食品の原料として自社製品だけでなく、他社へも供給されている。2021年10月14日、FDAの適格性審査を通過し米国向けに医薬品原料の出荷を開始した。

◇21.3期売上高構成比



(出所) 日本水産資料よりCAM作成

## 食に係る事業環境の好転、EPAの業績貢献に期待

22.3期・第1四半期（4-6月）連結業績は、売上高が1,654億円、前年同期比9%増、営業利益が70億円、同67%増。主要3事業（水産、食品、ファイン）が増収増益となり業績をけん引した。経済活動の回復に伴い「食」に係る事業環境が好転、国内養殖やチルド事業の改善効果も営業利益に貢献した。北米では、家庭用の冷凍食品の拡大に加え業務用の需要回復も見られた。商品のカテゴリー拡大、コロナ禍における冷凍食品への再評価などが寄与している模様。

22.3期業績の会社計画は、売上高が6,420億円、前期比4%増、営業利益が200億円、同11%増。第1四半期の営業利益は年間計画に対し35%の進捗率だが、期初業績予想は据え置かれた。原材料・物流費などのコストアップに加え、新型コロナの感染急拡大による生産面・調達面での不安材料を加味した模様。計画発表時点では、コロナ影響でFDAの査察時期が未定で、米国向け医薬品原料出荷が始まっていなかったことも考慮したとみられる。10月の米国向け出荷開始に伴い、一転し高純度EPAの海外展開が下期にも業績貢献しよう。なお、11月5日に中間決算発表予定。

### [株価動向・投資判断]

業績の進捗は対計画上げ基調で進捗、今後の業績見直しの動きに期待したい。EPA事業も中期的に業績貢献しよう。

<1332 日水 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	690,016 (▲3)	22,834 (5)	25,807 (2)	14,768 (▲4)	47.5	8.50
21.3	615,044 (-)	17,998 (-)	22,670 (-)	14,391 (-)	-	9.50
22.3 予	642,000 (4)	20,000 (11)	23,000 (1)	15,000 (4)	48.2	9.50

(注) 22.3期・第1四半期より「収益認識に関する基準」等を適用。21.3期の業績は当該会計基準等を遡及適用した数値のため伸び率は「-」表示



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/10/22)	645 円
年初来高値 (高値日)	689 円 (21/10/14)
同 安値 (安値日)	416 円 (21/1/4)
予想 P E R (22.3 予)	13.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	566.9 円
P B R	1.14 倍
予想配当利回り	1.47 %
(1株当たり配当金9.50円)	
R O E (21.3)	- %
発行済み株式数	31,243 万株